



## 逸見 梅栄 (へんみ ばいえい)

河北町名誉町民 昭和 45 年 5 月 18 日顕彰

明治 24 年 (1891) 5 月 11 日谷地村長表 (現河北町谷地) の東林寺に生まれました。明治 38 年、谷地尋常高等小学校高等科 2 年を修了の後、県立山形中学校、仙台第二高等学校を経て大正 2 年 (1913) 東京帝国大学文学部に進み、高楠順次郎博士に師事して梵語学を究め、大正 6 年に卒業。同 10 年から曹洞宗留学生としてインドに渡り、3 年の間インド各地で博物館や仏蹟を精力的に踏査し、専ら仏教美術の史料収集や研究に努めました。帰国後は、立正大学や駒沢大学、多摩美術大学の教授を兼任、講座を担当する傍ら、高楠博士監輯の「大正新修一切経」の編集に従事しました。その一方で、東林寺住職に任じられ、昭和 26 年 (1951) 10 月までの約 33 年間住職の地位にありました。しかし実際は名誉住職のような立場で、代務者が寺の経営に当り、師の生活と研究を支えていました。

また、師は昭和 4 年 (1929) から有栖川宮記念奨学金を受け、インド仏教美術の研究に専念し「インドに於ける礼拝仏の形式研究」をまとめ、同 9 年に文学博士の学位を授与されました。さらに昭和 13 年から 15 年迄、再び奨学金を受けて、満州・北支・内モンゴルを調査旅行し、それらの業績が認められ、戦後梅壇中学校・高等学校長 (現東北福祉大学) や多摩美術大学、駒沢大学等の教授の要職を歴任しました。師は、わが国における仏教美術研究の大御所的存在と評され、その道の研究者の多くは師の恩沢に浴していると言われています。